第３部　希望の家

Ⅰ　令和元年度事業総括

第１　運営方針

利用者の個別性を大切に、公益性のある法人が運営する施設として、地域の方々のご協力に支えられながら、利用者は元より市民に信頼される施設運営に努めました。

また、利用者の障がいの特性を理解し、一人ひとりに対して健康的で楽しい日中活動を提供しました。

第２　重点事業総括

１　安心して安定的に通える環境作り

ご家族の高齢化により、家庭環境の維持が厳しくなり、利用者の地域生活の継続に支障が出るケースが多々ありました。関係機関との連携もとり、その方の生活基盤の移行を丁寧に行いました。

また、普段から健康チェックで検温などを行い、手洗い・消毒作業にも慣れていた結果、ＣＯＶＩＤ－１９（新型コロナウイルス）の感染予防対策を順調に行うことができました。

２　職員の育成とより良い支援

適切な支援が行えるよう、てんかん基礎講座や強度行動障害支援者養成講座などに参加し、自閉症セミナーと虐待防止研修においては講師を招き全職員参加の学習会を開催しました。

毎日の支援の中で、ヒヤリとした事例や利用者の新たな発見など気付いた点を、振り返りの会議で次の日につなげるように積み重ねることができました。

３　運営内容の検討と試行

３施設間の垣根を低くし、それぞれの利用者に合った場所を選べるように、移動の意向調査や面談などを実施しました。

また、安定して通い続けるために、障害程度及び定数、受け入れ基準の見直しを検討しました。

Ⅱ　個別事業

第１　調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
(1)	調布市希望の家運営受託事業	自主	補助	委託	利用
		寄他		市	○

結果の概要

○利用者・家族の希望を取り入れながら、小グループ活動や個別の支援を行った。

○利用者が楽しめる時間や体験を広げられるよう、外出活動を中心とした個別の取り組みプログラムを実施した。

○調布市と協議しながら、利用者が安心して過ごせる施設運営を行った。

○個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者やご家族の高齢化による問題も関係機関と連携しながら取り組んだ。

○体調や人間関係によって不安定にならないよう、安心して過ごせる環境づくりに配慮した。

○利用者・家族アンケートを行い、第三者委員に講評をいただいた。

１　利用人数

結果の概要

○調布市希望の家は利用者２４人（１０月以降２３人）

○調布市希望の家分場は利用者１２人（１１月以降は１１人）

実績等

○令和元年度　調布市希望の家・調布市希望の家分場

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始　　（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
調布市希望の家	利用人数（人）	23	24	23	23	22	22	22	22	22	22	21	22	268	22.3
	開所日数（日）	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240	20.0
	のべ出席人数(人)	431	422	408	448	415	402	423	402	416	382	366	414	4,929	410.7
	出席率（%）	93	92	88	88	89	96	91	91	94	91	96	89		91.0
調布市希望の家分場	利用人数（人）	11	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	10	136	11.3
	開所日数（日）	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240	20.0
	のべ出席人数(人)	202	205	220	234	215	202	224	196	197	189	179	208	2,471	205.9
	出席率（%）	91	89	91	88	85	88	88	89	89	90	99	99		90.5

利用者年齢構成等（令和２年３月３１日現在）

	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
年　齢	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19 歳	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
20～29 歳	7 人	3 人	10 人	1 人	2 人	3 人	13 人
30～39 歳	2 人	0 人	2 人	1 人	0 人	1 人	3 人
40～49 歳	3 人	1 人	4 人	1 人	0 人	1 人	5 人
50～59 歳	0 人	1 人	1 人	4 人	2 人	6 人	7 人
60 歳～	1 人	3 人	4 人	0 人	0 人	0 人	4 人
計	14 人	8 人	22 人	7 人	4 人	11 人	33 人
平均年齢	32.8 歳	44.8 歳	37.2 歳	45.2 歳	39.0 歳	43.0 歳	39.1 歳

利用者障害支援区分構成（令和２年３月３１日現在）

	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
障害支援区分	男	女	合計	男	女	小計	合計
区分 1	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
区分 2	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
区分 3	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	3 人
区分 4	7 人	2 人	9 人	3 人	1 人	4 人	13 人
区分 5	5 人	1 人	6 人	2 人	2 人	4 人	10 人
区分 6	2 人	2 人	4 人	2 人	1 人	3 人	7 人
計	14 人	8 人	22 人	7 人	4 人	11 人	33 人

２　健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

〇体操教室、のびのび体操、水泳教室、音楽教室、ジャンベ教室、作業療法活動などの専門家を講師とした活動を継続的に行うことで、健康面での向上や生活リズムの安定につながった。

〇健康維持のため、ラジオ体操やウォーキング等の運動の機会を提供した。

実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝ラジオ体操	週１回
ウォーキング	不定期・1 時間～2 時間
体操教室	月１回・3 時間（1 時間×3 グループ、ダンスが中心の活動） 体力や年齢を考慮したグループ別で行っている
のびのび体操	月１回・3 時間（1 時間×3 グループ、ストレッチが中心の体操） 体力や年齢を考慮したグループ別で行っている

水泳教室	月１回・１時間 30 分

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月１回・１時間
ジャンベ教室	月２回・１時間（20 分×3 グループ、打楽器の演奏）
クラブ活動	希望した利用者を対象に、パソコンクラブ、リラクゼーションクラブ、調理クラブを実施した。
運動会	6 月 7 日（福祉作業所等連絡会主催運動会に参加）
音楽鑑賞会	11 月 6 日・半日（プロミュージシャンを招いて実施）
年度末お楽しみ企画	新型コロナウイルスの影響により、本場・分場での合同実施を中止。施設ごとに企画を実施した。 本場：3 月 9 日（カラオケ、ボッチャ、ビンゴ等。昼食は弁当を購入） 分場：3 月 26 日（分場にてカラオケ、茶話会）
高齢デイ 「楽しい会」	50 歳以上を対象にした月に１回の活動。 本場：対象利用者 6 人。プログラムをメンバー自身が決め、手づくり品の製作やスポーツ、買い物や映画鑑賞等での外出、ミニ調理などを行った。 分場：対象利用者 6 人で、カラオケ、果物狩り、公園散策、カフェ巡りなどを行った。

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月１回・１時間程度、作業療法士による運動機能維持などの活動。

分析・課題

〇利用者の年齢には１０～６０歳代の幅広さがあり、年齢層や体力面、特性・相性に応じた利用者のグループ分けによるプログラムを検討が必要となる。

〇体重の増加が課題となる利用者が多く、今後、運動量の確保を目的とする活動を増やすことが必要と思われる。

３　生産活動

結果の概要

〇企業受注では榮太樓総本鋪の和菓子の梱包の他、鈴木螺子工業のネジの組み立てを受注した。

〇自治体からの古紙回収・公園清掃、封入等の受注は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングを実施した。

〇販売会等は継続し、自主製品の販売を行った。

〇子ども用玩具「くるくる希望の虹」や髪飾りなど価格帯を下げた自主製品を販売した。

実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、ねじの組み立て

自治体からの受託	封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、ごみカレンダー、地域活動情報誌）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリー、くるくる希望の虹など
常設委託販売先	総合福祉センター
イベント販売	地域のつどい、パルコ前販売会、深大寺曼珠苑ギャラリー、福祉まつり、小地域交流事業、市役所ロビー展示会等

分析・課題

〇利用者が様々な経験を積む機会としても、自主製品の幅を広げていくことが必要。新たな自主製品の開発を行っていく。

４　昼食提供

結果の概要

〇配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供。肉禁やアレルギー食、きざみ食など個別の対応も行った。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当①	原則として毎昼食。
配達弁当②	月１回、福祉作業所の弁当を注文。（調布市希望の家分場）
カレーの配達	月１回、市内のかれーやより配達。

分析・課題

〇利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。

５　健康診断、健康管理

結果の概要

〇健康相談と合わせて問聴診（調布市希望の家７回・調布市希望の家分場３回）を実施し、必要に応じて医師・利用者・職員・家族と情報共有し、医師からのアドバイスを把握した。

〇看護師による月１回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の状態推移を把握した。

〇利用者のウィルス性感染の予防に努め、特に新型コロナウイルス流行への対応として、こまめな手指消毒の促しや毎日の検温、施設内の換気等を行っている。

〇本場にて、嘔吐物処理の訓練を２回行っている。

〇歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、定期的な歯科受診のアドバイスを受けた。

〇専門家への受診も行い、専門家からの助言を職員間で共有した。

〇健康相談は利用者及び家族にも同席を勧め、困りごとを相談し、課題を共有する機会となった。
〇災害時に備えて、１日分の薬を予備薬として預かっている。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断 （多摩川病院）	5 月 30 日／施設内で身体測定、検尿、胸部Ｘ線、視力、血液検査、HBｓ抗原抗体検査、HCV 抗体検査、クレアチニンを実施。40 歳以上を対象に、眼底、心電図、腹囲検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定 （看護師）	月１回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。 11 月 14 日（調布市希望の家実施） 11 月 7 日（調布市希望の家分場実施）
歯科健診 （調布歯科医師会）	12 月 13 日（調布市希望の家）、11 月 12 日（調布市希望の家分場）各施設内で実施。
聴診、健康相談（嘱託医）	調布市希望の家年 7 回、調布市希望の家分場年 3 回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス

分析・課題

〇新型コロナウイルスについて、高齢であることや持病があるなどで重症化リスクの高い利用者が多いため、あらゆる感染症防止対策を行っていく必要がある。調布市とも協議しながら対応していく。
〇嘱託医との連携を深め、医療面・精神保健面の知識を職員にフィードバックする取り組みが更に必要である。
〇家族の高齢化により情報共有が難しいこともあるため、関係機関も含めて健康管理を行っていく必要がある。
〇災害時に備えて預かっている予備薬について、服薬の変更時にもスムーズに対応できるようにしていく。

６　当事者活動の支援

結果の概要

〇利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。
＊利用者自治会（利用者で構成する会）
役員が事前に役員会を行うことで、どのような議題を自治会で話すかを決めるところから、利用者が主体となって協議することができた。自治会では３施設の活動報告等を行い、情報交換や顔合わせの場となった。利用者自治会長は運営委員としても活躍した。
＊家族連絡会
連絡会の会合では施設からの情報提供とともに、家族の思いや困っていることを伺うなど意

見交換をした。また、新たに希望する研修等についてのアンケートを実施し、その結果をもとに年４回の家族連絡会のうちの１回を障害に関する映画鑑賞会への参加とした。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	月１回（3 施設合同）／行事や活動の計画など
家族連絡会	年 4 回／情報提供、情報交換、意見聴取、家族懇談会など

分析・課題

〇重度の利用者が増えている中、利用者自治会における意見の引き出し方に工夫が必要になっている。

〇家族連絡会の出席率が低く、利用者家族同士が知らないという状況になっていることから、参加意欲を高めるために、家族連絡会内での研修や勉強会等のアンケートを実施した。今後もアンケート結果をもとに参加しやすい家族連絡会となるよう、研修や学習会を積極的に実施する。

７　送迎事業

結果の概要

〇自力での通所が困難な利用者を対象に実施した。

〇利用者の体調や安全面を考え、迅速に送迎サービス対応に努めた。

〇個別の配慮を要する利用者やショートステイを利用する利用者に個別送迎を実施した。

８　運営管理業務

（１）苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

〇第三者委員２人と苦情受付担当者１人、危機管理責任者１人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。

〇第三者委員会を２回開催し、事故、ヒヤリ・ハット、苦情、要望等についての情報共有、課題解決に向けて意見交換した。今年度より第三者委員よりいただいた意見やアドバイスをもとに、新たに実施した取り組みや対応策の報告や意見交換も行い、支援に反映できるようにした。

〇ヒヤリ・ハットの報告を増やし、より良い施設運営に向けた取り組みとして、毎日の各施設での振り返り時に出しあった意見を気付きメモとして記録し、月１回の会議で共有を始めた。

実績等

〇希望の家第三者委員会、年２回開催。

〇施設長、各施設担当者で新たな取り組みや気付きメモの実施について話し合う場を設けた。

分析・課題

〇ヒヤリ・ハットや事故報告があった際の再発防止策が具体的なものになっていないとの指摘が第三者委員からなされた。「さらに注意する」等の曖昧なものではなく、具体的に効果が検証できる対応策を検討できるようにする。

（２）サービス評価

結果の概要

〇希望の家独自のアンケート調査票を用いてサービス評価を実施した。集計を行い、第三者委員の講評を受けた。

事業評価

項　　目	内　　容
利用者アンケート調査	利用者本人へ書面によるアンケート調査。本人が答えるか、家族に相談しながらもしくは本人の気持ちを推察して回答。4 人は送迎員に聞き取り調査をしてもらい回答した。
家族アンケート調査	家族へ書面によるアンケート調査。
第三者委員会	職員、第三者委員による講評会。

分析・課題

〇利用者・家族ともに概ね現在の希望の家のサービスに満足しているという評価を得た。

〇家族は利用者が施設でどう過ごしているか分からないことが伺えることから、写真の活用等、利用者がわかりやすい設問の検討を行う。

〇利用者、家族から自由意見でいただいた回答や対応については様々な場面で発信できるようにしていく。

（３）運営委員会

結果の概要

〇当事者の会、家族会、地域関係機関、学識経験者など幅広く選出された委員の参加により調布市希望の家及び希望の家深大寺の合同運営委員会として４回実施した。

〇希望の家３施設の前年度事業報告及び次年度事業方針・事業計画について、希望の家深大寺の利用定員の課題について、希望の家３施設の相互交流について、利用者・家族アンケートについて意見交換を行った。

実績等

〇委員に希望の家３施設の現状についてより知っていただくために、例年の状況報告よりも詳細な内容で報告をした。また、その際に作成した資料は、希望の家３施設の利用者・家族、及び職員にも配布した。内部においても、あらためて互いの状況を知る機会となった。

〇上記同様、委員に現状を知っていただく機会として、日中活動の見学を依頼した。結果、希望

の家深大寺の活動に 3 人の委員が見学をされた。3 人の委員からは見学した結果、共通して高評価をいただいた。

調布市希望の家運営委員会委員構成

任期：平成３０年４月１日～令和２年３月３１日（敬称略）

	氏　名	選出区分
委員長	赤塚　光子	学識経験者
副委員長	日比生　信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）
委　員	進藤　美左	ＮＰＯ法人調布心身障害児・者親の会
委　員	正木　康子	希望の家家族会
委　員	堀口　節子	調布市希望の家自治会
委　員	渡辺　益男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委　員	能登　和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委　員	武田　敏彦	調布市福祉健康部障害福祉課長補佐
委　員	四家　綾子	社協評議員
委　員	大久保　摂	社協理事

令和元年度　調布市希望の家及び希望の家深大寺 合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第 1 回	5 月 15 日(水)	平成 30 年度事業報告、希望の家施設の近況報告、合同運営委員会スケジュール（案）について	11 人
第 2 回	9 月 19 日(水)	希望の家各施設の特色について	11 人
第 3 回	11 月 6 日(水)	上半期事業報告、希望の家サービス評価について、希望の家 3 施設間の移動について	13 人
第 4 回	2 月 26 日(水)	利用者・家族アンケートの結果報告及び意向調査の結果報告、工賃支払い要綱及び基準の変更について、令和２年度事業方針・事業計画（案）について	10 人

分析・課題

〇次年度の事業方針、事業計画については、運営委員会での意見を反映させることができるように引き続き開催時期に配慮していく。

〇利用者、家族の高齢化について、活動内容に応じて利用者が３施設を利用できる施設運営について、分場の改修工事による引っ越しなど引き続き議論が必要である。また３施設で共通する内容のほか、希望の家全体で検討すべき内容も多いため今後も合同で実施する。

（４）職員の資質向上

結果の概要

〇東京都や他団体主催の研修への参加の他、事例検討会を企画し職員の育成に努めた。

〇重い障がいのある利用者に関わるため、発達障害や強度行動障害についての研修へも積極的に参加し知識を深めた。

〇福祉作業所等連絡会での交換研修に参加し他の事業所での支援、活動について学んだ。

実績等

研修会等	主催
福祉職員初任者研修	調布市福祉人材育成センター
福祉施設経営研修	東京都社会福祉協議会
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協会
管理職・施設長研修（会計）	東京都福祉人材育成センター
福祉職員職務階層別研修 （キャリアパス対応管理職）	東京都福祉人材育成センター
管理職のためのメンタルヘルス講習	公益財団法人東京都福祉保健財団
強度行動障害支援者養成研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
福祉職員初任者研修	調布市福祉人材育成センター
発達障害の基礎研修	調布市福祉人材育成センター
福祉制度サービスについて考える	調布市福祉人材育成センター
移動・移乗の技術研修	調布市福祉人材育成センター
よい実践をふりかえる	調布市福祉人材育成センター
普通救命ＡＥＤ講習	東京消防庁
安全運転研修	トヨタドライビングスクール
職員交換研修	調布市福祉作業所等連絡会
より良い支援をめざして～グループディスカッション	調布市福祉作業所等連絡会
こうさい療育セミナー	公益財団法人鉄道弘済会
障害者支援でのＩＣＴ活用の実践	社会福祉法人にじの会
大災害に備えて	都通研等４団体共催
自閉症セミナー	希望の家
障害者虐待防止・権利擁護研修	希望の家（独自企画） 弁護士　関哉直人

※　上記以外に、社協全体での研修等に参加

分析・課題

〇施設内研修を充実させるため、次年度より、職員を利用者支援・衛生管理・安全（運転等）等のグループに分けて研修などを企画していくことを予定している。

（５）事業・建物管理

〇調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。

〇２階の会議室を利用する地域の方々が利用しやすいように、土日や休日はエレベーターを利用できるようにした。

（６）危機管理体制の整備

結果の概要

〇衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席するとともに、施設内の衛生管理や環境整備に努めた。

〇新型コロナウイルスへの対応として、調布市と協議しながら、人との接触を最低限にするための事業・行事等の縮小や、消毒・換気の強化等を行っている。

〇毎月１回、火災や地震を想定して、各施設で避難訓練を実施した。

〇不審者対応に関しては警察や調布市防災安全課の指導のもと、毎月１回外部からの侵入を想定した防犯訓練を開始した。

〇警察による近隣見回りの協力と、自力通所利用者の帰りに付き添い不審者への対応に努めた。

９　地域への働きかけ

結果の概要

〇地域のつどいは、地域住民の発表の場としてのステージと、新たに石原小地区協議会の協力を得てより地域交流の広がりの機会となった。

〇パルコ前販売会では企業の協力のもと、参加団体も増えての実施となった。

〇美化活動や近隣マンションの缶つぶしを行うことで、地域とのつながりがより広がった。

〇２階の利用団体に、分場の引越しや、新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用中止に対して、電話連絡や説明会において、丁寧な説明を行い理解していただいた。

実績等

活動名	内容など
地域のつどい開催 （調布市希望の家）	6 月 9 日（日）実施。施設開放行事として、模擬店、自主製品販売、ゲーム、コンサート等を催し、近隣住民や施設利用者との交流の場、施設の活動を知っていただく機会となった。
季刊誌、事業概要の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設などに配布した。
施設体験日の実施	けやきの森の平日振替休日に、市内在住の知的障がいのある方の施設体験の受け入れを行った。1 人の参加。
作業製品共同販売会	市内福祉施設と協力して製品販売をした。調布市総合福祉センター、調布パルコ前、クレストンホテル PR カフェ＆販売会、曼珠苑ギャラリー販売会、福祉まつり。
地域交流事業への参加	「福祉まつり」、「富士見ふれあいのつどい」に参加。
災害時の地域貢献	災害時については、障がい者等に配慮した避難場所としての施設活用を

	市と協議している。
会議室(本場)の貸出し	調布市希望の家の２階会議室を、近隣住民に無料貸し出しをした。

１０　その他

（１）個別支援・日中活動の充実

結果の概要

〇個別支援計画に基づき、利用者の年齢や体力面、特性に応じた、きめ細やかな計画で日中活動や作業を行った。モニタリング、個別支援計画の振り返りを行った。

〇これまで行っていたネジ作業や榮太樓作業に加え、缶つぶし、切手仕分け、美化活動（地域のごみ拾い)、定期古紙回収先を増やす（総合福祉センター、めじろ作業所、ＦＣ東京、西部児童館、富士見児童館等）等、作業内容の多様化・充実化を図った。

〇利用者の特性に配慮しながら作業室のレイアウトを変更した。

〇ご家族が対応できない場合や利用者の状況に応じて、関係機関と連携し通院同行を行った。

〇関係機関と連携し、利用者のサービス利用の拡大や他施設への移行に丁寧に対応した。

〇利用者の活動で作り上げた作品を、活動の講師の協力を得ながら「手作り展」の準備にも力を入れた。

分析・課題

〇「手作り展」は毎年好評だが、日頃の作品をどのように生かしていくかが課題である。

〇福祉サービスや医療、グループホーム等の関係機関との連携を強化し、利用者・家族への情報提供を更に進める必要がある。

〇介護者の高齢化が著しいため、家族も含めた見守りや緊急対応が一層必要になる。

〇利用者の特性や興味に応じた活動提供を可能にするため、作業及び日中活動の種目を増やすことを来年度も継続したい。

（２）広報

結果の概要

〇季刊誌の紙面に活動や行事の写真を掲載したことで、利用者・ご家族、市民に好評を得た。

〇個人情報の保護を徹底するため、本人及び家族の同意を得た上で、広報への写真掲載を行った。

〇季刊誌は４回発行した。

〇ふくしの窓をはじめ市報等で、行事関係などの周知を行った。

実績等

種　　類	回数／内容
月のお知らせ	月１回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ。
季刊誌	年４回／行事や活動、販売会の売り上げ報告など。
事業概要	年１回

ホームページ（社協 HP 内）	適宜

分析・課題

〇季刊誌を年４回発行しホームページの更新を適宜行い、希望の家の様子を多くの市民に知ってもらうことに努めたい。

（３）ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

〇近隣のボランティアや協力員により、利用者支援や行事運営のサポートをして頂いた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや、地域での理解者や新たなつながり作ることができた。

〇医療や福祉系の実習生を受け入れ、施設での利用者活動も活性化した。

実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1 人	縫製
日中活動	3 人	作業補助など
地域のつどい（年 1 回）	20 人	イベントの手伝い
水泳教室（年 9 回）	2 人	利用者の付き添い
園芸作業	1 人	作業の手伝い、園芸
体操・音楽・ジャンベ教室・アート教室・クラブ講師等	7 人	専門協力員等、利用者の付き添い
実習生	14 人	慈恵医大、社協実習生
特別支援学校　現場実習受け入れ	5 人	府中けやきの森学園
合計	53 人	

第２　希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
（２）	希望の家深大寺管理運営事業	自主	補助	委託	利用
		他	市都		○

結果の概要

○日々の職員間での振り返りやヒヤリ・ハット事例の共有、及びスキルアップのための研修等を行い、利用者に安心して通所してもらえる施設運営に努めた。

○年２回の個人面談を通じて利用者・家族からの希望を伺いながら、利用者が安心して過ごせる日中活動や支援を行った。

○個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の生活課題に対しても家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。

○独自の利用者・家族アンケートを行い、第三者委員及び運営委員会に講評をいただいた。

１　利用人数

結果の概要

○希望の家深大寺の利用者１８人。

○新規利用者として４月から２人が入所した。

実績等

○令和元年度　希望の家深大寺（４月～３月）

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（１２月２９日～１月３日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数（人）	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18.0 人
開所日数（日）	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240	20.0 日
のべ出席人数（人）	305	294	299	330	293	301	340	324	317	303	291	334	3731	310.9 人
出席率（%）	84	85	83	83	77	88	89	90	88	84	89	88		85.6%

利用者年齢構成等（令和２年３月３１日現在）

年　齢	男	女	小計
～19 歳	1 人	1 人	2 人
20～29 歳	7 人	2 人	9 人
30～39 歳	2 人	1 人	3 人

40～49 歳	2 人	1 人	3 人
50～59 歳	1 人	0 人	1 人
60 歳～	0 人	0 人	0 人
計	13 人	5 人	18 人
平均年齢	29.7 歳	29.6 歳	29.7 歳

利用者障害支援区分構成（令和２年３月３１日現在）

	希望の家深大寺		
障害支援区分	男	女	合計
区分 1	0 人	0 人	0 人
区分 2	0 人	0 人	0 人
区分 3	0 人	0 人	0 人
区分 4	0 人	0 人	0 人
区分 5	5 人	0 人	5 人
区分 6	8 人	5 人	12 人
計	13 人	5 人	18 人

２　健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

〇専門講師による体操教室、音楽教室、ジャンベ教室、作業療法活動について、利用者の参加しやすい環境（集団構成・活動時間）づくり等を行った。継続的に実施することで、利用者健康面での体力づくりや生活リズムの安定につながった。

〇健康維持のため、ウォーキング等の運動の機会を提供した。

実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝のラジオ体操	毎日朝・5 分
ウォーキング	週 1 回以上の実施
体操教室	月 4 回・2 チーム（講師による活動）
水泳教室	月 4 回・2 チーム（4 月～11 月までの実施）

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月 2 回・1 時間（講師のピアノに合わせて歌う）
ジャンベ教室	月 2 回・1 時間（講師の指導を受け、みんなで打楽器を自由に演奏）
運動会	6 月 7 日（福祉作業所等連絡会主催運動会）応援合戦などに参加
音楽鑑賞会	11 月 6 日・半日（3 施設合同、プロミュージシャンを招いて実施）

年度末お楽しみ会	ピザ窯とグリルを使用したアウトドア調理

その他の活動	回数／時間
作業療法	月２回・半日、作業療法士による創作活動・運動機能維持などの活動

分析・課題

〇利用者それぞれの興味・関心、体力面、特性・相性に応じて利用者のグループ分けをし、各種プログラム活動の提供をした。より積極的に参加できるよう、活動提示の仕方や環境づくりに工夫が必要。

〇７，８月はプールの団体予約ができなかったため、それに代わる活動として、総合福祉センターでの入浴活動を実施した。今後も利用客が集中する夏季にプールの団体予約が取れないことが想定されるため、その場合の活動の実施方法に検討が必要。

３　生産活動

結果の概要

〇企業からの受注（ねじの組み立て・採便管の封入）により、年間を通して安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。

〇毎週２回、古紙回収作業を実施した。

〇作業所等連絡会の共同受注により、２種類のポスティング作業を実施した。

実績等

企業等からの受注	ねじの組み立て、採便管の封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓、地域活動情報誌）

分析・課題

〇利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として提供することができた。

〇受注がなく作業活動が提供できなくなった時に、これに代わる施設内での日中活動が少ない。生活介護施設として、作業活動だけではない日中活動を豊かにする取り組みの検討が必要。

４　昼食提供

結果の概要

〇配達弁当にて、普通食と低カロリー食、刻み食、おかゆや軟飯に対応して提供した。

〇お楽しみとして月に１回の出前や、「ミニ調理」（お楽しみ調理）を実施した。施設の庭で栽培した野菜を使っての調理や、炭火による本格的なピザ釜を使って焼いたピザは好評だった。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
カレーの配達	月１回（第３水曜日）、市内のかれーやより配達。
出前の実施	月 1 回／近隣の飲食店からメニューをチョイスし、選択制で注文を受け出前を楽しむ。

分析・課題

〇ミニ調理では「自分のものは自分で作る」をテーマに、より多くの利用者が少しでも参加できる事を目標として実施することができた。

〇利用者によっては、配達弁当の刻み食でも一口分が大きいことがあった。加齢による咀嚼・嚥下機能の低下も考慮し、食事形態を相談していく必要がある。

５　健康診断・健康管理

結果の概要

〇健康相談を６回実施し、必要に応じて医師・利用者・職員・家族と情報共有し、医師からのアドバイスを把握した。

〇健康相談は利用者及び家族にも同席を勧め、困りごとを相談し、課題を共有する機会となった。

〇看護師による月１回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の状態推移を把握した。

〇今年度より看護師による月１回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施。利用者の体調の変化をより意識することができた。

〇歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診などのアドバイスを受けた。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断 （多摩川病院）	5 月 29 日／施設内で身体測定、検尿（自宅にて採尿）、胸部Ｘ線、血液検査、血圧測定、HBｓ抗原抗体検査、HCV 抗体検査を実施。40 歳以上の利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定 （看護師）	月 1 回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。 11 月 15 日に実施。
歯科健診 （調布歯科医師会）	1 月 29 日実施。
健康相談（嘱託医）	年 6 回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談およびアドバイス。

分析・課題

〇感染症予防のため毎日の消毒を実施し、インフルエンザ流行期間は全職員がマスクを着用した。また、職員に限らずすべての来所者にも手指消毒や検温を実施し、新型コロナウイルス予防対策に努めている。

〇嘱託医と連携をとり、家族や職員の相談、利用者の健康管理に役立てた。

６　当事者活動の支援（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

７　送迎事業

結果の概要

〇希望する利用者を対象に実施（全員）。

〇ショートステイなどを利用する場合、施設まで送迎を行った。

〇利用者が落ち着かない状況の時など突発事由の際には、個別送迎を実施した。

８　運営管理業務

（１）苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

（２）サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

（３）運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成

任期：平成３０年４月１日～令和２年３月３１日（敬称略）

	氏　名	選出区分
委員長	赤塚　光子	学識経験者
副委員長	矢田部　正照	深大寺北町山野自治会
委　員	進藤　美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委　員	正木　康子	希望の家家族会
委　員	堀口　節子	調布市希望の家自治会
委　員	五十嵐　敏明	関係機関（NPO 法人わかばの会）

委　員	伊地山　和茂	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委　員	武田　敏彦	調布市福祉健康部障害福祉課長補佐
委　員	四家　綾子	社協評議員
委　員	大久保　摂	社協理事

（４）職員の資質向上

結果の概要

〇日頃の振り返りミーティングにおいて、適切な支援の在り方やヒヤリ・ハット事例の共有をした。

〇重い障がいのある利用者に関わるため、発達障害や強度行動障害についての研修へも積極的に参加し知識を深めた。

〇福祉作業所等連絡会での交換研修に参加し他の事業所での支援、活動について学んだ。

〇弁護士を招き、全職員参加の虐待防止研修を行い、またグループワークで有意義な意見交換ができた。

実績等

研修会等	主催
福祉施設経営研修	東京都社会福祉協議会
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協会
強度行動障害支援者養成研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局
摂食嚥下機能支援研修会	多摩府中保健所
発達障害の基礎研修	調布市福祉人材育成センター
移動・移乗の技術研修	調布市福祉人材育成センター
よい実践をふりかえる	調布市福祉人材育成センター
普通救命 AED 講習	東京消防庁
安全運転研修	トヨタドライビングスクール
職員交換研修	調布市福祉作業所等連絡会
自閉症セミナー	希望の家
障害者虐待防止・権利擁護研修	希望の家（独自企画） 弁護士　関哉直人

※　上記以外に、社協全体での研修等に参加

分析・課題

〇外部研修参加した職員からの報告の時間を作りフィードバックを行った。

（５）事業・建物管理

結果の概要

〇障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。

〇建物管理を依頼している施工業者との確認により、必要な修繕を実施した。

（６）危機管理体制の整備

結果の概要

〇衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席するとともに、施設内の衛生管理や環境整備に努めた。

〇毎月１回、火災や地震を想定して、各施設で避難訓練を実施した。

９　地域への働きかけ

結果の概要

〇９／７(土)に「第６回希望の家深大寺地域のつどい」を開催した。近隣の山野自治会や高齢・障がい者等福祉施設や保育園のご協力をはじめ、北ノ台小学校には全校生徒にチラシ配布のご協力をいただいた。また、利用者の参加による模擬店やゲームコーナー、自主製品の販売、コンサート等の実施により地域住民との交流が広がる機会となった。

〇地域の自治会パトロールへの参加など、地域住民との交流を進めた。

〇地域の福祉施設での催しに参加することで、希望の家深大寺のＰＲを行った。

分析・課題

〇地域のつどいは地域住民と施設との交流を目的とし、利用者も楽しめる行事として行っているが、希望の家深大寺をより知ってもらうために、利用者と地域住民との方が関われるような機会を検討し、今後も継続したい。

１０　その他

（１）個別支援・日中活動の充実

結果の概要

〇利用者の年齢や体力面、特性に応じた個別支援計画を作成し、それに基づき日中活動や作業を行った。

〇状況に応じて個別送迎を行った。また、家庭の事情を受けて延長利用の対応をした。

〇社会参加の機会、及び外出活動として、近隣で利用できる新たな外出先を増やしていった。

分析・課題

〇新たな外出先での活動は、利用者それぞれの新たな一面を知る機会ともなり、支援の幅が広がることにもなった。

〇車を使用しての外出活動が多く、施設内で行う活動が少ない。雨天時にも安心して定期的に取り組める室内活動の検討が必要。

（２）広報

結果の概要

〇個人情報の保護を徹底するため、本人及び家族の同意を得た上で、広報への写真掲載を行った。
〇季刊誌は４回発行し、写真をふんだんに使い利用者にも見やすいよう紙面を工夫した。
〇ふくしの窓をはじめ市報等で、行事関係などの周知を行った。

実績等

種　　類	回数／内容
月のお知らせ	月１回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ。
季刊誌	年４回／行事や活動、販売会の売り上げ報告など。
ホームページ（社協 HP 内）	適宜／地域のつどい等のお知らせを行った。

分析・課題

〇季刊誌は、読み手の立場に立ち、手に取って読みやすい紙面を意識して制作に取り組んだ。
〇地域への施設理解を広めるために、ホームページを積極的に活用していく。

（３）ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

〇ボランティアや協力員により、利用者支援や行事運営のサポートをして頂いた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。

実績等

行事・活動	人数	内容
地域のつどい	15 人	イベントの手伝い
水泳教室	2 人	利用者の付き添い
日帰り旅行体験	3 人	利用者の付き添い
リフレッシュ活動	1 人	利用者の付き添い
体操・音楽・ジャンベ教室講師	4 人	専門協力員
合計	25 人	